

平成29年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
桃太郎チャレンジキャンプ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

小学校中学年という人間関係の大きな発達段階にある子供たちが、自然の中で共に宿泊体験や自然体験活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい集団生活を築こうとする態度や、自ら困難なことにもチャレンジしようとする心情を育む。

2. 事業の概要

（1）期日

平成29年8月20日（日）～8月26日（土）6泊7日

（2）参加者

① 募集対象・人数

参加対象 小学校3・4年生 24人（応募総数54人）

② 参加人数

24人

（3）講師等

ボランティア11人

（4）企画・運営のポイント

- ① 今回初めて6泊7日の移動キャンプを実施するので、参加者及びボランティアについては、基本的に全日程参加できることを条件に募集を行った。
- ② ボランティア対象の事前研修を1ヶ月前と前日の2回実施した。研修内容は、実地踏査とリスクマネジメントを中心に構成し、実際の活動を想定して行った。
- ③ 「新たな自分への挑戦」をスローガンに、そのために、「自分のことは自分です」「困難なことにも挑戦する」「仲間と力を合わせる」ことを目標として掲げた。
また、毎日の振り返りでは、班旗をビーイングとして活用し、個々の振り返りにも生かした。
- ④ グループ編成は、異学年の協力という観点から3年3人・4年3人の男女6人の4グループとし、班付リーダーを2人とした。
- ⑤ ロングウォークのリスク管理を行うため、看護師協会と連携して看護師1名の派遣を依頼し、ロングウォークの3日間を派遣していただいた。
- ⑥ フェイスブックに毎日の活動の様子を掲載して、情報発信するとともに、保護者にも紹介して我が子のがんばりを確認できるようにした。
- ⑦ 保護者と参加者がキャンプの内容を共有できるように、閉会式の中でボランティアスタッフから毎日の様子についてそれぞれ1分間程度にまとめて発表した。
また、班付リーダーから各保護者へ参加者のキャンプの様子や活躍を報告した。
- ⑧ 親子の絆を深めて参加者の成長を促すため、参加者には内緒で保護者から手紙を書いてもらった。そして最終日前夜のキャンドルのつどいの中で、改めて子供

私たちは家族の思いを知る。今度は、保護者に内緒で子供たちが返事を書き、閉会式の中で、それぞれの家族へ思いを伝えるといったプログラムを企画した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
8/20 (日)				受付	開 会 式	仲間づくり ゲームⅠ	昼食	仲間づくり ゲームⅡ	テント設営			野外炊事			シャワー	振り 返り	就寝
8/21 (月)	起床 清掃 朝のつどい 朝食	野外炊事	ウォークラリー(国少順コース) 昼食(レストラン弁当)						野外炊事			シャワー	振り 返り	就寝			
8/22 (火)	起床 清掃 朝のつどい	野外炊事	バス 移動	ロングウォーク①桃太郎伝説巡り 吉備津彦神社～吉備津神社～ノートルダム女子大学 一宮校舎 昼食(野外炊事)					野外炊事			入浴	振り 返り	就寝			
8/23 (水)	起床 清掃 準備	野外炊事	ロングウォーク②桃太郎伝説巡り ノートルダム女子大学一宮校舎～砂川公園 昼食(野外炊事)						野外炊事			シャワー	振り 返り	就寝			
8/24 (木)	起床 清掃 準備	野外炊事	ロングウォーク③鬼ノ城アタック 砂川公園～鬼ノ城 昼食(野外炊事)						野外炊事			シャワー	振り 返り	就寝			
8/25 (金)	起床 清掃 準備	野外炊事	お楽しみ活動(水遊び)			野外炊事		片付け	バス移動		夕食 (レストラン)	準備	キャンプファイヤー	シャワー	就寝		
8/26 (土)	起床 清掃 朝のつどい	朝食	移動 準備	クラフト		振り 返り	閉 会 式										

(2) 活動の状況



【仲間づくりゲーム】



【班旗作成】



【野外炊事】



【ウォークラリー 課題】



【吉備津神社】



【ロングウォーク】



【鬼ノ城】



【水遊び】



【キャンドルのつどい】



【閉会式 各班の発表】



【閉会式 家族への手紙】



【閉会式 集合写真】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① ご飯を友達と助け合って作ったことが、楽しかった。
- ② 一番心に残ったのが、鬼ノ城頂上から見た景色でした。みんなと頂上できびだんごを食べたのも楽しかった。
- ③ しんどかったけど、ロングウォークで着いたときが、達成感があって楽しかった。
- ④ 友達とケンカをしたり言い合いをしたりしたけど、協力して楽しい思い出ができた。
- ⑤ 山登りやご飯作り、テントなど、全部楽しかった。

(3) 成果

- ① 日々の活動を重ねる中で、班内でケンカや言い合いなども起きたが、次第に自分たちで解決しようとする姿が見られた。そのたび、以前に比べて団結力が増し、次の活動に生かすことができていた。
- ② ロングウォークの3日間について、真夏の炎天下での活動となるため、看護師をスタッフに加えたことで、安心して実施することができた。
- ③ 帰宅後のアンケート調査では、「包丁がうまく使えたり、料理を一人で作ったりできるようになった。」「人のことを考えて行動できるようになった。」「自分の考えを人に伝えることができるようになった。」など、事後の変化について子供たちは答えていた。また保護者の感想の中にも、「以前に比べて辛抱強くなり、下の兄弟の面倒をみるようになりました。」「感謝の気持ちを口にしたり、身の回りのことを自分でしたりするようになりました。」など、「新たな自分への挑戦」という目的を達成することができた。
- ④ 「家族からの手紙」のように手紙を扱ったプログラムは初めてであり、保護者の協力が必要なため事前の準備に不安もあった。しかし、普段言葉にできない家族の思いを伝え合うことができたので、参加者の自尊感情も高まり、さらに親子の絆を深めることができた。

(4) 今後の課題

- ① 小学生3年・4年を対象とした場合、野外炊事など様々な活動に予想以上に時間がかかることを考慮し、次年度は余裕をもたせた時間設定が必要である。
- ② 1週間のキャンプに参加可能なボランティアの確保に努める。
- ③ ロングウォークや話し合いの持ち方など、時間に制約のある活動では、どこまで子供たちに任せるのか、どこから指導者がリードしていくのか、ボランティアを含む指導者が共通認識しておく必要がある。

担当：企画指導専門職 徳永 正樹